

平成30年度 学校自己評価システムシート（県立三郷高等学校）

目指す学校像	志と思いやりの心を育み、生徒一人一人の進路を実現する学校
--------	------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 集団の一員としての自覚と規律の確保 2 基礎学力とコミュニケーション能力の定着 3 キャリア教育の充実と志の育成 4 家庭・地域と連携した安心安全な教育環境の確保
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (2月1日 現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	○現状 きめ細かな指導により、規範意識の定着を図っている。大部分の生徒は、素直であり、協力的である。一部生徒に自覚に欠ける行動がある。 ○課題 全生徒への基本的生活習慣の定着が課題である。	○時間厳守、授業専念等の凡事を徹底させる	①毎日登校指導と巡回指導、挨拶指導を実施する。 ②遅刻について、段階的な指導を展開するとともに、保護者との連携を図る。 ③生徒情報を共有し、スクールカウンセラーを積極的に活用する。	①②遅刻者数の減少。 ①②皆勤者数の増加。 ③見守りの必要な生徒の情報共有。	○ 時間厳守の評価項目は概ね達成しているが、課題がある。第二学期の1日当たりの平均遅刻者は22名。(昨年同期5名増。)皆勤者数は118名。(昨年同期2名減。) ①教員分担による登校指導と挨拶指導が定着した。 ②遅刻者への指導は定着している。 ③スクールカウンセラーを有効活用している。見守りの必要な生徒の情報は、教育相談委員会が把握。	B	・理由のない遅刻者の減少が課題である。そのため、保護者との連携を強化し、遅刻者への指導方法を改善する。 ①見守りを必要とする生徒情報の確実な共有のため、教育相談委員会と企画委員会の連携を強化する。
		○集団の一員であることを自覚させる	①仲間との団結や、協力する姿勢を重視した行事運営を行う。 ②三郷市と連携した「親になるための学習」を継続して実施する。 ③部活動生徒を中心に、地元主催行事等の運営に協力する。	①生徒の各行事参加率、運営への協力姿勢。 ②生徒の参加態度、満足度。 ③三郷市主催行事への協力状況。	○ 集団の一員であることを自覚させる評価項目は、ほぼ達成した。 ①生徒の行事参加率は、体育祭98%、文化祭96%、長距離走大会97%、芸術鑑賞会95%であった。 ②親になるための学習の参加態度は良好であった。 ③未成年者喫煙防止キャンペーンや三郷シティハーフマラソン大会役員へ生徒を派遣した。	A	・部活動の活性化が課題である。そのため、顧問が活動に専念できるための会議の精選や仕事の効率化を進める。 ・三郷市との連携による、「親になるための学習」は順調であり、今後とも連携を深めていく。
2	○現状 基礎重視の授業展開により、学習意欲が向上し、成績優秀者が増加している。一部に意欲に乏しい生徒や、自己表現力が未熟で、他者とのコミュニケーションに支障のある生徒がいる。 ○課題 基礎学力を定着させ、コミュニケーションスキルを向上させることが課題である。	○基礎学力を定着させる	①スタディサプリを学年進行で導入し、家庭学習を支援する。 ②教員が校内外の公開授業に積極的に参加し、成果を共有する。 ③生徒による授業評価アンケートを実施し、結果をフィードバックする。	①成績優良者数の増加と成績不振者の減少。(前年度比) ②公開授業参加者数と校内での成果共有の状況。 ③生徒アンケート結果による授業満足度。	○ 業者による基礎力診断テストにより、学力指標が向上した生徒が、計108名。(資料のある二三年生) ①第二学期の成績優良は117名。(昨年同期9名減。)成績不振者は210名。(昨年同期4名減。) ②他校公開授業参観者は3名。12月18日に成果共有のための報告会を行った。 ③生徒アンケート結果による授業満足度は良好。	A	・生徒の実情を考え、現行のWEB予備校「スタディサプリ」を、新年度から「Class i」に変更する。基礎学力定着の効果を検証していく。 ・成績上位者の学力を伸ばさせるための報告会を行った。
		○コミュニケーション能力を育成する	①5月に、アドベンチャー学習を実施する。 ②学期初めの4月、9月、1月に全校でコミュニケーション能力育成プログラムを実施する。 ③協調学習を取り入れた授業を実践し、主体的な学びを推進する。	①アドベンチャー教育、ボランティア活動参加の満足度。 ②コミュニケーション能力育成プログラムの実施状況。 ③協調学習を取り入れた授業における生徒の参加態度と満足度。	○ コミュニケーション能力育成プログラムは、一定の効果が現れているが、個々生徒への浸透が課題である。 ①1年生対象のアドベンチャー活動を5月11日に実施し、生徒の満足度は良好であった。 ②実施後、生徒の満足度は概ね良好であり、生徒のコミュニケーション能力の向上に寄与した。 ③10月17日本校で実施した公開授業は、3会場とも生徒は真剣に取り組んだ。	B	・コミュニケーションプログラムの成果を、日常の学校生活に生かすための仕掛けを考えていく。 ・県教委指定の、「未来を拓く学びプロジェクト」研究開発校として、画一的な授業を脱して、双方向の授業展開を研究する。
3	○現状 三年間を見通した進路指導計画を構築し、学年差やクラス差のない進路指導を展開している。早期に高い就職内定を達成し、推薦を中心とした進学実績も高い。一部に、自らの生き方を考察できない生徒がいる。 ○課題 自己肯定観を醸成し、キャリア教育を充実させることが課題である。	○志を育成する	①「校長賞」を設定し、生徒の日々の頑張りを表彰する。 ②生徒会役員や各部部长、各委員会委員長等により多くの活躍場面を与え、リーダーを育成する。 ③志を育てる講演会等を実施する。	①表彰回数状況。 ②生徒活躍場面の確保状況。 ③外部講師による講演会の実施と実施アンケート結果。	○ 文化祭表彰や部活動生徒育成、生徒会役員育成などの志の育成は、ほぼ達成できた。 ①文化祭にて、校長賞を表彰。希望者70名が参加した部活動合宿にて多くの生徒を表彰した。 ②生徒会役員の実践をホームページに掲載するなど、自信と力量を高めた。 ③三年生スポーツⅡの授業にて、車椅子バスケの体験を行った。	A	・各種行事における生徒の活躍や成長、改善点を検証し、定期的な全校集会にて評価する。 ・県教委から認証を受けている、「オリンピック・パラリンピック教育」を活用し、世界の平和に貢献できる人材を育成する。
		○キャリア教育を充実させる	①入学から卒業までの3か年進路指導計画を策定し、学年差のない指導を展開する。 ②就職対策として、外部講師による面接指導を導入する。 ③漢字検定の全員受検を実施する。6月(3年)、1月(1、2年)。	①総合的な学習の時間とホームルームの活用状況。 ②面接指導の実施回数。 ③検定試験等の合格状況。 ①②③進路決定時期と実績。	○ 進路指導部のリーダーシップにより、学年差やクラス差のない一貫したキャリア教育を実践できた。 ①木曜設定の総合的な学習の時間とホームルームを、年間とおして有効活用している。 ②教員による面接指導を緊密に行うとともに、外部講師による面接指導をのべ800回以上行った。 ③漢字検定3級の合格状況は、3年生約10%、1、2年生約25%であった。 ①②③三年生の就職内定率は、100%であった。	A	・本校の強みである「最新データ」に基づいた進路指導体制を、今後とも高いレベルで維持していく。 ・県内普通科高校ではトップクラスの資格取得について、今後とも、挑戦する気風をつくり、生徒に自信を与える。
4	○現状 PTA後援会理事会や、学校行事への保護者参加は、年々増加している。また、地元三郷市からの依頼に応える公開講座や、地元中学校への出前授業も積極的に実施している。 ○課題 学年レベルでのPTA行事の活性化や、地元地域からの生徒確保が課題である。	○PTA活動を活性化	①PTA・後援会総会において、本校の取組を具体的に説明する。 ②PTA専門部主催の事業をタイムリーに、効果的に実施する。 ③積極的なPRにより、保護者の体育祭や文化祭等への来校を促す。	①保護者の本校教育実践に対する理解の状況。 ②PTA各事業への参加者数 ③体育祭や文化祭等への保護者来校者数。	○ PTA活動の活性化は概ね達成。役員の負担軽減を目的として理事会日程を変更し、効果を検証中。 ①総会において、学校自己評価システムシートの説明を行った。 ②文化祭における役員参加は110名、長距離走大会におけるサポート参加は70名。 ③体育祭の保護者来校78名。文化祭の保護者来校94名。	A	・役員の負担軽減が課題である。そのため、理事会日程の工夫や、高P連行事への参加者分担等の検討を進める。 ・欠員だった同窓会長を選出した。今後は、渉外部を中心に、同窓会内の役員人事や、事業計画の精査に取り組んでいく。
		○地域連携を推進する	①ホームページ、学校案内、MISATOニュースレター等の広報ツールを活用する。 ②8月に地域向け公開講座を実施するとともに、中学校からの要請による出前授業に協力する。 ③教員による中学校訪問とともに、代表生徒による母校訪問を行う。	①ホームページの更新回数、「MISATOニュースレター」の発行数。 ②公開講座、出前授業の実施と参加者数。 ③中学校訪問と母校訪問の実施状況、地元地域からの志願状況。	○ 地域連携の評価項目は、ほぼ達成した。今後は、さらなる情報発信に努める。 ①名称を変更した三郷高校通信を年5回発行。ホームページにおける部活動情報の更新回数が増加。 ②第一学期末に、地元中学校へ国語の出前授業を実施。三郷市教委からの要請で、夏季休業中、市民向けに3講座を設定。台風の影響で1講座のみ実施。 ③教員による中学校訪問は予定どおり実施。初の試みとして、本校一年生による母校訪問を48校実施。	A	・平成31年4月から始まる「三郷高校部活動に関する基本方針」を広く説明し、各種計画を生徒及び保護者に公表する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成31年2月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒達は、学校行事に積極的に参加しているなど、学校生活を楽しく過ごしている様子が伺える。今後も学校行事の充実を期待する。 ・登校時、校門前で多くの先生方が挨拶を行いながら生徒を出迎えている様子は、生徒に寄り添った指導に思える。今後も継続してもらいたい。 ・部活動のさらなる活性化を願う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・スマホやパソコンを活用してのスタディサプリの実施は、基礎学力の定着や学習意欲の向上に効果がある。「Class i」に変更される新たな改善について、取り組みの成果を期待する。 ・タブレットを使った授業実践など、授業改善の効果もあり、生徒達は授業に熱心に臨んでいる。 ・基礎学力の定着をはかるための学び直しの補習や大学等進学を見据えた補習を充実してもらいたい。 ・生徒同士が教え合う授業は学習効果を高める。協調学習を推進してもらいたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に、生徒が主体的に活動する雰囲気がある。今後も生徒の能動的な活動を認め、応援している姿を大事にしてもらいたい。 ・ボランティア活動など社会貢献活動を熱心に行っている。学校外での貢献度も高い。そのような活動についてもっと、外部にアピールしたほうが良い。 ・きめ細かく進路指導を行っている成果が現れている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭や文化祭など様々な学校行事について、多くの保護者の方が参観されていることから、学校とPTAの協力体制がしっかりしている。今後も良好な連携関係を築いてもらいたい。 ・三郷市と連携して、いろいろな取り組みを行っている。今後も、外部連携を続けてもらいたい。 ・ホームページなどを活用しながら学校教育活動について積極的に発信してもらいたい。 	